

2012年2月18日（土）開催

みやじまさんぽと包ヶ浦海岸清掃

2月18日、包ヶ浦自然公園で海岸清掃を行った。今回は、三井住友トラストグループ中央三井信託銀行広島支店の皆様との共同事業。参加者は41人（MMMスタッフ6名含む）。

当日は、宮島栈橋から包ヶ浦自然公園まで、MMMスタッフが自然観察ガイドを務め、自然散策「みやじまさんぽ」を楽しんだ。

海岸では、ゴミ袋を大きなものに持ち替えて、砂浜を600mにわたり清掃した。

●みんなが知らないみやじま●

当日は、気温こそ低いものの、太陽が顔を覗かせる絶好の清掃日和となった。

参加者の多くは、栈橋左手のエリアはなじみが無いとのことで、宮島を知ってもらおうと「みやじまさんぽ」を楽しみながらゴミ拾いをして会場入りしてもらった。

2班に分かれ、軍手と火バサミ、ビニール袋を装備していざ出発。道中、MMMスタッフが目につく植物や宮島の歴史、広島のカキ

についてガイドした。MMMの自然散策では、見るだけ、聞くだけではなく、できるだけ触れて味わってもらい、五感で味わうことを大切にしている。今回はコシダの茎をかじってもらった。

シカがたくさんいるので草むしりをしないことや、シカの首が届く高さまで植物が少ない様子を紹介すると、みなさん驚いていた。宮島では、シカの食害の問題や、人が捨てたり海岸に流れ着いたビニールを食べたシカが栄養失調になる問題が起こっていることも紹介した。

栈橋から約1時間、ガイドの話の聞いたり、ゴミを拾ったりしながら包ヶ浦自然公園に到着した。

●約2時間の清掃で約170kgのゴミを回収●

包ヶ浦自然公園に到着すると、ゴミ袋を大きなものへ持ち替えて、グループごとに海岸で清掃活動。ゴミの分別は、MMM独自ルールで、発泡スチロールの破片・カキ養殖のパイプ・ビン・カン・ペットボトル・その他の6種である。



清掃活動は約1時間。一番多かったのは、カキ養殖で使用される塩ビ製のパイプ。短いものから長いものまで45リットルのごみ袋でおよそ10袋分もあった。

厄介なごみは、いかだのフロートに使用される大きな発泡スチロール。



浜に打ち上げられたフロートは、風であ

おられ、岩に擦れてばらばらになり、海岸に雪のように積もっていく。プラスチック製品なので、自然に戻ることも期待できない…。細かくなった発泡スチロールを集めるのは至難の業である。残念なことに、これらの事業系ごみ

は、なかなか減らないのが現状である。

一方、ペットボトルや弁当ガラ、釣り道具などは、明らかに私たちの生活ごみ。私たち自身、日ごろの生活を見なおしたり、ポイ捨てをしないように心掛ける取組みも必要だ。

清掃中に、珍しいものを発見。一見クワガタのようにも見える5cmぐらいの黒い物体。実はエイの卵だ。「卵=丸いもの」という固定観念からは想像も出来なかったと参加者の声。



瀬戸内海には、干潟や藻場など豊かな自然が残っており、私たちはその恵みをいただきながら生活している。汚れたところをきれいにする事はもちろん、そもそも汚さないようにするために、日ごろからの私たちの取組みが重要であると思いを共有した。

事業名：みやじまさんぽと包ヶ浦海岸清掃	日時：2012/2/18（土）	天候：晴れ時々雪
参加者：35人（大人34人 小1人）	スタッフ：6人	
清掃エリア：①宮島栈橋から包ヶ浦海岸の道路 ②包ヶ浦海岸		
<p>成果：清掃活動で集めたごみの量：169.1kg</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フロート（発泡スチロール）：25.5kg ・カキ養殖パイプ：100.1kg ・カン・ビン：11.0kg ・ペットボトル：8.0kg ・その他（漁具・プラスチック片など）：24.5kg <p>参加者感想：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんごみを集めたつもりだけど、海岸がきれいになったとは言い切れず、継続が必要と感じた。 ・カキのこと、植物のことなど学べて楽しかった。 ・海岸で見かけていたパイプが何者か正体が判った。 ・海岸にはいろいろな物が漂着していて驚いた。 	<p>当日プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> 9:15 オリエンテーション 1班：みやじまさんぽ出発 9:30 2班：みやじまさんぽ出発 10:30 包ヶ浦自然公園到着 海岸清掃開始 11:30 分別・計量 12:00 まとめ 昼食 → 解散 	